

Katan Information

Campus Calendar 2020年度「学生のその他の主な活動」

- 4 Apr | ○「勇心酒造株式会社バリアケアPR動画制作プロジェクト」オンラインにて始動(D・Aコース)
- 7 Jul | ○日本Androidの会 Flutter勉強会(情報ビジネスコース)
○三豊市・日野自動車×香川短期大学連携事業(情報ビジネスコース)
- 8 Aug | ○松山・野球拳オンラインまつり出演 憶れてまうで賞受賞(ダンスゼミ)
○保育講座プロジェクト「子どもの発達と遊びについて」(飯山高校)(子ども学科)
○少年健全育成活動<夏休み塾>(ボランティア同好会)
○旧町内夜間防犯パトロール(ボランティア同好会)
- 9 Sep | ○令和2年7月豪雨災害義援金募金活動(香川短期大学学生赤十字奉仕団)
○保育講座プロジェクト「子どもの発達と遊びについて」(飯山高校)(子ども学科)
○「かがわeかみしばいコンテスト2020」表彰(情報ビジネスコース)
○みとよ×香川短大連携事業ポスターデザイン一次審査(情報ビジネスコース)
- 10 Oct | ○たのしくレクリエーション「フォトウォークinみとよ」(生活介護福祉専攻)
○「勇心酒造株式会社バリアケアPR動画制作プロジェクト」第1次完成(D・Aコース)
○三豊市内ゲストハウス及び父母ヶ浜フィールドワーク(情報ビジネスコース)
○レスパラボ「子ども食堂」ハロウィンイベント 香川短大を探検しよう(全学科)
○2020 明治安田生命3リーグ カマタマレ讃岐×SC相模原 ハーフタイム出演(ダンスゼミ)
○丸亀通町商店街みたら市 ダンスパフォーマンス出演(ダンスゼミ)
- 11 Nov | ○かがわ菓子まつり・希少糖まつり-希少糖入り健康スイーツの販売(商品開発&調理ゼミ)
○(公財)明治百年記念香川県青少年基金助成事業:学生による企画提案活動支援事業開催「生活文化にふれよう!-郷土の食べ物を使ったオリジナルお弁当を作ろう!」(食物栄養専攻)
○宇多津町を障害者にとって住みやすくなる活動第2弾(生活介護福祉専攻)
○宇多津町の認知症施策推進モデル事業 認知症対応劇の映像化(生活介護福祉専攻)
○The Entertainment of dancing world ダンス公演(ダンスゼミ)
○保育講座プロジェクト「子どもの発達と遊びについて」(高瀬高校・笠田高校)(子ども学科)
○保育者研修会「気になる子どもに音楽療法的活動の活用について」(子ども学科)
○丸亀市「まるっこフェス」参加(子ども学科)
- 12 Dec | ○レスパラボ「子ども食堂」食育指導と料理指導(食育ゼミ)
○丸亀市立郡家小学校5年生を対象とした介護の魅力発信のワークショップ(生活介護福祉専攻)
○NHK海外たすけあい募金キャンペーン(香川短期大学学生赤十字奉仕団)
○レスパラボ「子ども食堂」食育指導(保育ゼミ)
○喜田建材(三豊市)とのコラボレーション「リノベーションプロジェクト」開始(D・Aコース)
○「勇心酒造株式会社バリアケアPR動画制作プロジェクト」第2次完成(D・Aコース)
- 1 Jan | ○和のコンテンツラリー-2020 親子でHAIZAIアート:世界でオンライン(D・Aコース)
○少年健全育成活動<冬休み塾>(ボランティア同好会)
○四国健康村とのコラボ スイーツ(台湾カステラ)販売(商品開発&調理ゼミ)
○レスパラボ「子ども食堂」食育指導(食物栄養専攻)
- 2 Feb | ○レスパラボ「子ども食堂」食育指導(食物栄養専攻・食育ゼミ)
○香川短期大学産学連携プロジェクト商品開発発表試食会(商品開発&調理ゼミ)
○デザイン・アートコース卒業制作展(D・Aコース)
○新都市夜間防犯パトロール(ボランティア同好会)
○カルチャー講座 親子料理教室(1年生有志)

コロナ禍に届いた 温かいご支援

地元の企業から食料を寄贈していただきました

6月22日、株式会社 久保田麺業(本社:丸亀市 営業本部:宇多津町)より半生うどん(300g/1袋)2000袋の寄贈がありました。6月10日、コロナの影響でアルバイトが激減した本学留学生の様子『減らそう 学生の生活苦』(NHK高松放送局「ゆう6かがわ」)の放送を見て「同じ地域で事業をしている企業として学生さんの力になりたい」との願いで寄贈いただきました。久保田麺業は、「さぬきうどん」を基盤に業績を飛躍的に伸ばしてきた麺類総合メーカーで宇多津町に営業本部を置いています。同じ町内の企業からの支援は学生にとっても非常にありがたいことです。寄贈いただいた半生うどんは1人3袋を全学生に大切に配布させていただきました。受け取った学生らは、思いがけないプレゼントに笑顔を見せ、「ありがとうございます」と言いながら、うどんを受け取っていました。後日、本学と代表留学生よりお礼状をお渡ししました。



[編集後記]令和2年度は新型コロナウイルスの1年でした。人々の日常は大きく変化し、目に見えないウイルスが、これほど人の生活に影響をもたらすとは思いませんでした。生活の仕方で感染者数は増減し、その後の社会や生活のスタイルも変わります。私たちは自分で出来る感染予防を徹底していくことが、結果としてコロナの収束に繋がり、人の命を救うことを学びました。さらに、コロナの本当の怖さは経済活動を低迷させ、見えづかった社会の分断を可視化して人と人の繋がりを奪うことも思い知らされました。私たちはコロナによって学んだ多くのことを未来に繋げなければなりません。コロナによって大きく変貌する大学での生活や学ぶ環境をクリエイティブな逆転の発想で意義あるものにならなければならないと考えます。(地域交流センター長)

香川短期大学 地域交流センターnews 著作・編集
地域交流センター運営委員会:齊藤栄嗣/楠見寿一郎/松永美恵子/大久保直幸/今井将紀
大嶋寛子/谷本弘子/西内由依乃
広報委員会:齊藤栄嗣/楠見寿一郎/田村 充/小松陽子/今井将紀/三村千恵/細川明美

地域交流センターは、地域に愛され親しまれる大学を目指して地域貢献活動を推進しています。
本誌に対するご意見をお気軽にどうぞください。

Tel:0877-49-8030 E-mail:chiikikouryu@kjc.ac.jp

〒769-0201 香川県綾歌郡宇多津町浜一番丁10番地
Tel:0877-49-5500(代) Fax:0877-49-5252

<https://www.kjc.ac.jp>

香川短大 検索

○編集・発行/香川短期大学 地域交流センター ○デザイン・印刷/セキ株式会社 発行日/令和3年3月12日

香川短期大学地域交流センターnews

KATAN CLOVER

Kagawa junior college / Center for regional exchange

vol. 10 2021 Spring

地域と
ともに歩む
Step forward with
the community.



KATAN CLOVER

Kagawa junior college / Center for regional exchange

[Katan Cloverとは・・・]

香川短期大学(通称「香短」)には4つの学科があります。
幸福のシンボルである四つ葉のクローバーに例え、
群生し地を這うクローバーのように、
学生が力を合わせて地域に根付き、力強く活動して社会に
幸福をもたらしてほしいとの願いを込めています。

地域における活動

宇多津町と避難場所使用協定

香川短期大学と宇多津町は5月22日、町役場で「災害時における指定緊急避難場所に関する協定」を締結しました。一昨年の西日本豪雨災害や昨年の台風15・19号などの河川決壊による水害が起きた場合、宇多津町内の大半が浸水する恐れがあり、町民らの避難先確保の重要性が高まっています。

締結式には、本学の加野芳正学長と福家浩二事務局長、高島美代子総務部長、宇多津町から谷川俊博町長と亀井修副町長が出席。加野学長と谷川町長が協定書に調印しました。

この後、谷川町長が「河川が決壊すれば大きな被害が出る想定されます。今後の南海トラフを震源とする大地震の発生などを考えますと、今回の協定締結により、香川短大の建物を緊急避難に使わせていただけることになり、感謝を申し上げます」と述べました。

加野学長は「近年の豪雨災害や予測されている南海トラフの大地震などを考えますと、地域に生きる大学を避難場所として、建物を利用いただけるのは誠に喜ばしく、避難された後も快適に過ごしていただけたと思います。『備えあれば患いなし』施設をどう活用すればいいかを研究してまいります」とあいさつしました。

今回の協定締結を機に、災害発生時には町からの緊急要請を受け、近隣住民や観光施設からの避難者を受け入れることになります。



デザイン・アートコース産学連携共同制作 株式会社喜田建材「ゲストハウス」リノベーション協業

詫間町にある株式会社喜田建材から、同社が保有している観音寺市にあるゲストハウスのリノベーション協業依頼があり、デザイン・アートコースの1年生13名がプロジェクトに携わっており、令和2年度内での完成を予定しています。

リノベーションのコンセプト立案段階から学生の意見を取り入れていただき、現地調査で得た情報から、現況の改善計画をグループ(3部屋ある個々の部屋を1グループとして)ごとにスケッチやパース、文書などで提案しました。提案内容の一例として、『映画館のような空間』『インスタ映えスポットの設置』『気兼ねなくおしゃべりできる』『用途に合わせた着せ替え部屋』などがあります。さらにこれと並行して、インテリアコーディネーターの辻ひとみ先生に実際の住宅設計における内装計画および設計のプロセスをレクチャーしていただき、本リノベーションで必要になる具体的な対象(本計画では宿泊施設のリノベーションであるため宿泊者)を想定するペルソナ決めを行いました。

今後このペルソナと部屋ごとの空間イメージを基に、色や素材、設備や仕様の決定を行い、最終的な完成を目指します。

協業に参加している学生にとって、自身で計画立案した設計原案が触れられる形になって実現する本プロジェクトは、机上だけに留まらず全ての工程を体験できる非常に意義深いもので、学生時代の貴重な体験になります。



学生がスケッチした空間デザイン

産学連携 「柿茶とゆで小豆のシフォンケーキ」商品化

食栄養専攻の「商品開発&調理ゼミ」(松永先生)の学生が提案した「柿茶とゆで小豆のシフォンケーキ」が、坂出市で柿茶を製造・販売する柿茶本舗(井上信忠社長)により商品化されました。

松永先生らは、ポリフェノールやビタミンCなど柿の葉に含まれる栄養素と、血糖値の上昇を抑える効果があるという豊富な食物繊維に着目。2017年当時、ゼミに在籍した学生約20人が柿茶を使ったメニュー12品を提案した中のひとつ。同社が、学生らが考えたレシピや栄養成分表に沿って、健康志向のスイーツに仕上げました。

シフォンケーキには柿茶の粉末を練り込み、緑色の生地からはふわっとした柿茶の香りが漂います。松永先生は「柿茶の風味が生きる配合比率を学生主体で考えました」と説明。カフェを併設した柿茶本舗のアンテナショップ「かきのは」(坂出市)で扱っており、店内で食べたり、持ち帰りたりできます。

ゼミでは、地元企業と地域産品を使った商品開発に取り組むことで、学生に地域への関心を高めてもらい、地元の良さを認識させる狙いもあるそうです。(期間限定商品)



2020 明治安田生命J3リーグ カマタマーレ讃岐xSC相模原 ハーフタイム出演!

ダンスゼミは10月18日にピカスタジアム(丸亀市)で行われたカマタマーレ讃岐のホームゲームのハーフタイムショーに出演しました。ダンスゼミでは、モダンダンス・HIP HOP・子ども向けダンス等様々なジャンルのダンスに取り組みしており、今回は14名がチアダンスで地域のスポーツや選手をスタッフの方と共に応援することが出来ました。

約1000人のサポーターを前に、広いグラウンドの中で踊ることは、とても気持ちがよく学生らは素敵な笑顔で踊りました。ダンスゼミは今後もダンスを通じて地域活性化の一助を担っていく活動を継続します。



Activities

笑顔と真心大切に地域社会のにぎわい創出

地域のみなさんとのふれあいを大切にしたいー

2020年度も、学生たちは授業で学んだ成果を披露するため各地へ出かけました。

学生たちは、とびっきりの笑顔と真心で子どもたちやお年寄りと交流を深め、充実した学生生活の1ページを紡ぐことができました。

貴重な学外活動を通じて、学生たちは多くのものを学びました。

卒業しても、その思い出は貴重な財産となるでしょう。学生たちの活動の一部を紹介します。

生活文化学科
食物栄養専攻

生活文化にふれよう 郷土の食べ物を使った オリジナルお弁当を作ろう！

小学生を対象に「生活文化にふれよう～郷土の食べ物を使ったオリジナルお弁当を作ろう！～」のイベントを開催しました！

食物栄養専攻では11月21日、地域の小学生を対象に郷土の食材についての食育教室とオリジナルお弁当の調理実習【(公財)明治百年記念香川県青少年基金助成「学生による企画提案活動支援事業」を実施しました。今年度で10回目をむかえ、準備から当日の先生役まで学生を中心に計画・企画を実施したもので、今回も昨年度のアンケート結果を参考にしつつ、学生たちがコロナ感染予防を最重要課題として、企画を考えて調理実習などを実施しました。参加者は小学生が19名、保護者12名、学生スタッフ21名、教職員その他卒業生の5名、総勢50名以上の参加となりました。調理実習の前に行われた食育ゼミ学生による「かがわの特産物について」の食育教室では、スライドを使いわかりやすく県の食材について解説し、さぬきっ子クイズは大変盛り上がりしました。調理実習を終えた子どもたちからは「とても楽しかった」「とてもおいしく作ることができた」「また作りたい」といった声が聞かれました。



表彰式後は、子どもが作る「弁当の日」提唱者の竹下和男先生を講師に迎え、「弁当の日」講演会を開催しました。竹下先生は、「弁当の日」により、子どもが変わる、親が変わる、先生が変わる、子どもが育つ環境が変わることを強く語ってくださり、感動して涙を流す高校生もいました。最後に先生から「作る楽しさを子どもたちに」というお言葉をいただき、このことをこれからの食育活動のよりどころにしたいと強く思いました。

生活文化学科
食物栄養専攻

食育活動 「高校生お弁当の日甲子園2020」

12月19日、「高校生お弁当の日甲子園2020」の表彰式および「弁当の日」講演会を開催しました。この取り組みは、高校生を対象に、調理への関心を高め、県内唯一の栄養士養成校を知ってもらうことを目的として、香川県若者県内定着促進支援補助金事業の一環として行っているもので、今回で5回目となります。今年のテーマは「魚介類を使ったお弁当」で、新型コロナウイルス感染予防のため書類審査のみとなりましたが、県内外13の高等学校から過去最多の153点もの応募があり、最優秀賞1点、優秀賞2点、佳作8点、入賞14点、合計25点の作品が選ばれました。最優秀賞の有岡真緒さん(高松東高校3年生)の作品は「頑張る高校生を応援弁当」というタイトルで、香川県産の鯖をアーモンドといっしょに揚げたものを主菜に、副菜は野菜を多く使い、彩りよく盛りつけたオリジナル弁当です。加野学長から表彰を受けた有岡さんは、「とてもうれしい、これまで以上に料理が好きになった」と笑顔で話してくれました。

生活文化学科
生活介護福祉専攻

認知症対応劇の 映像化

新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中で、遠隔授業やオンライン交流会をスムーズにこなす学生から「動画を使って何かできないか」という意見があり、それをきっかけに「宇多津町における認知症にやさしい地域の居場所づくりと普及啓発事業」とマッチングし、認知症の対応方法について寸劇を行い、地域住民や行政とともに認知症になっても住みやすいまちづくりを目的として映像化しました。

宇多津町内の認知症サポーターや民生委員さんが生活場面全てを讃岐弁でやり取りする台本を考え、介護を学ぶ学生が熱演しました。

学生は、実習中に関わった高齢者の動きや話し方、歩き方を参考に役を演じ、家族同士では感情的になりがちな葛藤などの感情も表現していました。この活動はメディアでも紹介され、映像は宇多津町の介護予防事業紹介なども合わせてDVDとして作成し、コミュニティーセンターや小中学生向けに認知症の普及啓発事業として使われています。

コロナ禍とはいえ、それぞれの立場で出来ることを考え、前向きに取り組む学生が現場で更に活躍することを期待しています。



子ども学科第1部
子ども学科第3部

専門性を活かした 出前授業

子ども学科では、出前授業としていくつかの高等学校へ講義に出かけています。主に家庭科の授業の一部として、専門の「子どもの発達と保育」について講義を行っています。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で年度初めは実施できなかったのですが、6月末以降からの活動を再開しています。

保育の現場では、子どもたちが遊びながらたくさんのことを学ぶことや、その学びを支えるために、保育者が関わり方を工夫し様々な発想で子どもの興味を膨らませていることを伝えています。生徒の方々は、熱心に話を聞いてくれます。保育のさわりの部分ですが、ぜひ保育者のイメージをより身近に感じ、具体的にして将来の進路選択のお手伝いになればと思います。今後より専門的に充実した授業を行い、地域の教育や保育に少しでも貢献できればと考えています。

子ども学科第1部
子ども学科第3部

「こども劇場」を 無観客で熱演！

例年ユープラザうたづと高松のレクザムホールで3日間開催され、約2500名の子どもたちやご家族が来場される「こども劇場」。本年度はコロナ感染対策として無観客で録画を行い、作成したDVDを今回ご招待するはずだった幼稚園、保育所などへお送りすることとなりました。

子どもたちの笑顔と声援を受けながらの公演とは違いテンションを高めるのが難しいかと思われましたが、2・3年生がリーダーシップを発揮してこれまでの練習の成果をしっかりと表現できた良い舞台となりました。

今年の演目は、ブラックライトで上演する「ももたろう」、動物の着ぐるみと一緒に踊るダンス、「シンデレラ」のミュージカル、子どもたちには珍しい楽器で演奏する吹奏楽、絵本で有名な「スイミー」のダンス、「おたすけレンジャー」がばい菌と戦う劇などでした。



三豊市との連携事業

2020年4月より経営情報科情報ビジネスコースは三豊市の交通政策・まちづくりに関する事業に関して、自治体・県内の高等学校・大手自動車メーカーと連携した地域活性化プロジェクトに関わってきました。本学の取り組みとして、今年度は三つの過程を実施しました。

一つ目は、地域の事前知識の習得です。市長はじめ、市内で活躍する起業家に本学へ来校いただき、「市内で何が起きているか」「観光産業がどのように活発になっているか」といった具体的な活動内容について講義をしていただきました。

二つ目は、父母ヶ浜周辺でゲストハウスを営む方の話を聞くため、荘内半島ヘフィールドワークに行きました。社会人、他大学生も交えブレインストーミングによるプロジェクト進行に関わる課題に対する解決案と考察を行い、地域の在り方について考えました。

三つ目は、三豊市コミュニティバスに啓蒙活動ポスターを掲載する為に、デザインコンテストをインターネット上で行いました。結果54作品が投稿され、インターネットやSNS上でもコンテストとデザイン案が宣伝されました。コンテストにより選定された作品は、市内全域のコミュニティバス内に2か月間掲載され、学生達の取り組みの結果として、ポスターデザインのうち代表的な11作品は市役所内のデジタルサイネージにて掲載されました。



経営情報科
デザイン・
アートコース

デザイン・アートコース 産学連携共同制作

勇心酒造株式会社 「バリアケア」の効能を アニメ化

宇多津町創業の勇心酒造株式会社からの依頼で、同社が2019年に立ち上げた医療ブランド「バリアケア」をPRする動画をデザイン・アートコースの2年生6名が制作しました。この動画は、全国の学会や調剤薬局での同ブランドへの理解を深めるためのもので、本年度4月、コロナウイルス感染防止の対策で、勇心酒造の担当者とのオンラインでの話し合いを余儀なくされるなかスタートしました。

乾燥かゆみの肌トラブルを家庭でケアする「バリアケア」シリーズの入浴剤、石けん、クリームに使われているライスパワーエキス(No.1-D、No.3、No.11)の特徴を表したオリジナルキャラクターを登場させ、効果や使い方を分かりやすく説明しています。絵コンテを完成させた後、テロップやナレーション、効果音の使い方、キャラクターたちの動きに磨きをかけ、インパクトをもたせるよう何度もブラッシュアップを重ねて、約4分の短い動画に編集しました。



▲ライスパワーの特徴に応じて学生が考案した3種のキャラクター



▲PR動画はこちらから

リーダーの唐渡千夏さん、小林千紘さんはそれぞれ「誰かのために作品を制作するのはとても貴重な経験になった。」「想像以上に難しいけれど、分かりやすく伝えられるように工夫した。」とし、キャラクターを考案した川村朱莉さんは「効能や性質が一目で分かり、見た人の心に届くようなデザインを心掛けた」と説明しています。

動画は学会のブースや医療機関、調剤薬局ですでに視聴されており、「かわいらしく、わかりやすい」と好評を得ています。その後、新しく開発された「インバスマルク」(ライスパワーNo.7配合)の新キャラクターによる解説も追加され、約1年間の制作期間を経て、2021年2月に最終版が完成しました。

❖❖❖ カルチャー講座 ❖❖❖

地域交流センターは宇多津町教育委員会との共催でカルチャー講座を開講しています。2020年度、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、5月からの開講は中止とし12月から5講座のみの開講となりました。学内での検温、参加人数制限などの感染症対策を施した中での開催となり、参加をお断りした方々には深くお詫び申し上げます。今後はウィズコロナ時代に対応した講座の開講を模索し、地域住民の方々の生涯学習講座としての役割を果たしていきたいと考えています。

プログラミングに挑戦 ブロックリーゲームを体験しよう

受講生に論理的思考に加えて、問題解決の楽しさを実感し、プログラミング能力を体験してもらうため、Googleが未来のプログラマー向けに提供しているサービスであるBlockly Game(ブロックリーゲーム)を利用した講座を行いました。このゲームではプログラマー初心者でもそれぞれマイペースに学んでいけるよう、ゲーム感覚でステージをクリアしていただきます。

1日目は、『パズル』『迷路Lv1～Lv10』にチャレンジしてもらいました。迷路は小学校低学年くらいの知識と知恵と忍耐力があればクリアしていただけます。ヒントをもとに進めていきましたが、迷路のLv8以降は難しく、クリアした時は大人・子ども関係なく喜んでいました。

2日目は、『鳥』と『タートル』のステージとなります。x軸・y軸の二次元的な要素と鳥やタートル線の進行方向(角度)の知識が必要となるため、小学校高学年の知識が要求されます。またxやyなどの変数を学んでいない小学生でもゲーム感覚で楽しく進めることで積極的に取り組んでもらえました。

参加者全員が初体験でしたが、「楽しかった」「少し難しかったけれど、いろいろな話が聞けやる気につながった」と感想を言ってくれました。



親子料理教室を開催

食物栄養棟調理実習室でコロナ対策を行いながら親子料理教室を開催しました。3月3日のお雑様を控え、今回はおひな様料理で、献立は「甘酒のカップ寿司」「エビのゴマソース」「三色吸い物」「おひなさまクレープ」でした。定員も8組と限定しての開催でしたが、皆さん元気で「コロナに負けない」の気持ちが伝わってきました。

親子料理教室を通じて食の楽しさ、大切さを知ってもらうことが一番の目的です。献立も新型コロナウイルス感染症に負けない免疫力を増やそうということも考え、発酵食品の甘酒を使ったり、ビタミンCたっぷりのブロッコリーを使いました。また昆布かつお節でだしを取って作った吸い物のうま味、伝統料理などを取り入れ、「本物の味」を知ることで食の意識が高まることを望んでいます。全員で自分たちの作った料理を食べると、「美味しいね」「楽しかった」と笑顔があふれていました。仲間や親子で料理を仕上げることで子どもたちも元気が出た半日でした。



❖ 2020年度 開講一覧

- ・プログラミングに挑戦 ブロックリーゲームを体験しよう 経営情報科 岩倉洋平講師
- ・認知症サポーター養成講座 生活介護福祉専攻 田村 友助教
- ・大人が楽しむ絵本講座 ～絵本の絵を読む～ 附属図書館 藤原まゆみ司書
- ・ミニクルクルレインボーを作ろう 子ども学科 新潟礼准教授
- ・親子料理教室(郷土料理) 食物栄養専攻 松永美恵子教授、上北采佳助教

❖ 2021年度 開講予定講座

2021年度開講講座につきましては、決まり次第ホームページに掲載いたします。詳しくは香川短期大学ホームページでご確認ください。

▶ <https://www.kjc.ac.jp>